

令和5年度

第10回定例教育委員会記録

阿久根市教育委員会

1 日 時 令和6年2月13日(火) 午後2時開会

2 場 所 第2会議室

3 出席委員 委員 大漣 孝夫
委員 古賀 正男
委員 中野 真理
教育長 中野 正弘

4 欠席委員 委員 西園 敦子

5 事務局職員 教育総務課長兼
学校給食センター所長 牧尾 浩一
学校教育課長 濱崎 忠雄
生涯学習課長 新町 勝利
スポーツ推進課長 大田 省吾

5 記録者 教育総務課長補佐 寺地 英兼

6 会議に付した事件

日程第1 令和5年度第9回定例教育委員会会議録の承認について

日程第2 事務執行報告について

日程第3 その他

7 その他

今後の日程について

8 議事の概要

別紙のとおり

定例教育委員会 2 / 1 3 (火) 開会 午後 2 時 0 0 分

報告・議決事項の採決状況

○ 報告事項

報告番号	件名	審議の状況	採決次第
	なし		

○ 議決事項

議案番号	件名	審議の状況	採決次第
	なし		

議事の要旨

日程第1 令和5年度第9回定例教育委員会会議録の承認について

教育長，教育委員 異議なく承認。

日程第2 事務執行報告について

教育委員，教育長，各課長から報告あり。

- 大漣委員 学習定着度調査について、規模の大きい学校ほど成果が出たとあったが、基本的にはどういうところが良かったのか。
- 中野教育長 小規模校は、指導が徹底できるが、今回の大規模校とは阿久根小・中学校であり、5教科全て前年度の数値を上回り、また、平均も上がってきている。また、その他の小規模校も含め、全体的に学力が向上している。
- 大漣委員 大規模校だけではなく、小規模校も上がっているが、大規模校が顕著に表れているということか。
- 中野教育長 そうである。小規模校で一人のところもあり、なかなか全体的なものは見れないが、30～40人の学級で昨年から成果が上がっている。
- 大漣委員 児童生徒数の多い大規模校で成績が上がることは、素晴らしい。
- 中野委員 会計年度任用職員の採用試験について、現在、学習指導支援員と特別支援教育支援員に不足が生じているのか。
- 中野教育長 先ほど過不足があると報告したが、特別支援教育支援員が1名、学習指導支援員が1名であり、再度募集をかける予定であるが、問い合わせが既にきている状況である。人数は確保できると考えている。
- 大漣委員 支援員の夏休み期間中の給与体系は、どのようになっているか。
- 中野教育長 特別支援教育支援員は、夏休には授業が無く勤務が発生しないことから、給与は支給されない。学習指導支援員は、子供たちの学習指導の時間を設けるので、ここに差がある。
- 大漣委員 休み期間中に給与が支払われなくなると、欠員が出ることもあるかもしれない。
- 中野委員 夏休みなどの長期休暇に入ると、学童保育も1日あり、人員が不足するので、特別支援教育支援員に学童保育に入ってもらっている。

- 中野教育長 夏休みに子供たちが学校に来て、学習という勤務の形態が発生する状況ができれば、考えていく必要がある。夏休み期間は家庭に帰す時間帯なので、そこが難しい。
- 大漣委員 学童と連携していくという方法は。
- 中野教育長 学童と連携し、その期間は学童に従事する形をとっている。
- 中野委員 学習定着度調査について、大規模校は、習熟度別のクラス編成があると思うが、今はどのような形で習熟度別が小規模校ではできないと思うが、阿久根小、脇本小、阿久根中、三笠中でどのようになっているか。
- 中野教育長 少人数指導というのは、大きな学校に教員定数とは別に加配という形になる。このような形で配置される学校は、阿久根小と阿久根中だけになる。他の学校で少人数指導というのは、先生方が授業時数は増えても良いと言えはできるが、労働時間が関係してくるので難しい。阿久根小・中だけが加配としてプラスされ、阿久根中で3名、阿久根小で2名配置されている。どちらもTTという形態であるが、同じクラスで担任の先生2名で指導する形をとっている。
- 中には、算数など定着度で基礎コースと応用コースの2つに分けてする場合もあるが、現在は、TTという形をとっている。

その他、報告に対する質疑等なし。

その他

(1) 奨学金に関する報告事項（教育総務課）

教育総務課長より、阿久根市奨学金貸付基金条例施行規則において、現在の規定で2名の連帯保証人を必要とし、その内1名が市内に住所を有するとしている者としてあるが、本年度、市外からの移住者から応募があり、現行制度の条件を満たす連帯保証人を見つけることが困難なため、早急に対応策を講じる必要が生じた。

今後もこのようなケースが想定されることから、現在、同規則を改正するための手続き中であり、改めて定例教育委員会において承認を求めるが、急を要する案件であり、改正前に応募書類を受理することを御了承いただくもの。

報告に対する質疑等なく、了承

(2) 阿久根市いじめ防止基本方針について（学校教育課）

児童・生徒の取り巻く環境が大きく変化する中、いじめの重大事態や児童・生徒の自殺者数の増加傾向が続き、生徒指導をめぐる状況が大きく変化している。このような状況を踏まえ、本質的な課題を対応するため、令和4年12月に生徒指導提要が10年ぶりに改訂された。本市でも国・県、生徒指導提要を踏まえ、市、学校、家庭、地域住民が一層連携して、いじめ問題の克服に向けて取り組むことができるよう阿久根市いじめ防止基本方針の見直しを図っている。

2月にいじめ問題対策連絡協議会を開催し、本基本方針の改定について協議を行い、2月中にパブリックコメントを実施し、令和6年度からこの基本方針を市ホームページに掲載する予定である。

(3) 卒業式、入学式の告辞者について（学校教育課）

新型コロナの感染状況を踏まえ、各学校は来賓の出席を自粛していたが、令和5年度卒業式と令和6年度入学式については、コロナ前の状況に戻す方向で考えている。教育委員会については、別紙のとおりとしたため、了承を得るもの。

（別紙により、学校別の告辞者を示す。）

報告に対する質疑等なく、了承

(4) 令和6年度教育委員の学校訪問について（学校教育課）

別紙令和6年度学校訪問一覧にあるとおり、令和6年度は、阿久根中学校、脇本小学校、西目小学校、折多小学校を計画している。

報告に対する質疑等なく、了承

(5) 地震を想定した避難訓練について（教育長）

先日の校長会で、この地震を想定した避難訓練を市内の全小・中学校で実施したいとの相談を受けた。恐らく、5月・6月が想定されるが、スケジュール感が気になり、校長に意見を求めた。小規模校については可能とのことだが、阿久根小・中学校は難しいとの回答を得たところである。阿小では、300世帯の移動を想定した引き渡し訓練となると、他の事故が起こることが懸念される。現時点では、学年を指定しての訓練では可能としている。

取組は良いことであるので、全学校一斉に訓練するという事で、令和6年度は、三笠中、脇本小、折多小が実施する方向で検討に入ることになった。実施した結果を受け、他校の実施を検討したい。

(6) 学校の統・廃合に係る取組について

小中一貫教育を実施予定の2小学校、1中学校の取組で、複数回の会議を行っている。現在、3校の教職員全員が全体会と分科会（学習指導、生徒指導、保健安全）を実施し、児童生徒の現状や問題の共通理解を図っている。

次に、3校の校長と教育委員会（教育長、学校教育課長）で複数回協議を行い、令和6年度から共通の教育目標とめざす学校像、めざす子供像、めざす教職員像を同じにしたいとの意向を受けて話し合いを行い、現時点で決定したので職員に内容をおろし、令和6年度から同じ目標でスタートする。

共通の実践事項として、授業時間の最後10分の充実を实践する。生徒指導面では、自主的なあいさつと返事の徹底を掲げ、保健安全面では、体育で5分間の学校の課題に応じた運動を実施する。家庭の協力があることであるが、就寝1時間前のメディアは避ける。年齢に応じた睡眠時間の確保について学校と家庭が連携して取り組むことが目標として決定している。

この3校は、学校運営協議会をそれぞれ開催しているが、3校一緒に開催したいとのことで、各学校4名の計12名で3校の学校運営協議会と、各学校での学校運営協議会を開催するという形で規則の改正を現在学校教育課で手続き中である。

鶴川内小・中学校については、委員の確保が難しいとの理由から、合同で両校から各5名による学校運営協議会を開催する。また、コミュニティースクールの研修会が来年度志布志市であるので、三笠中、脇本小、折多小の学校運営協議会のメンバーに出席してもらう予定である。

現在、来年度の教職員人事異動については調整中であるが、脇本小、三笠中については、来年度と同様、三笠中に技術の教員がいないので、脇本小の教員からの了解を得て入ってもらう。脇本小には、三笠中から音楽を、他の教科についてもできないか検討中である。また、了解を得て、脇本小から折多小学校へ算数の教員が指導に入る。

先ほど話をした学習指導、生徒指導、保健安全の各部会で、合同の研修会を開くことを計画している。

(7) 特認校制度の導入について（教育長）

折多小学校と三笠中学校の校長から相談があり、児童生徒の減少で学級数の減少が見込まれることから、令和7年度から特認校制度を導入したいとの意向を受け、現在、手続きを進めるよう指示している。

大川小校区から阿久根中学校に進学する生徒について、現時点で困り感が無いか、昨年12月に学校へ出向き、意見交換を行った。意見交換をして分かったことは、帰宅する際のバスの時間帯が合わず、待ち時間が長いということで、南国交通に次年度以降の発着時間の見直しの相談をしているところである。また、郵便局前のバス停のベンチが壊れているとのことで、教育総務課で至急対応し、自転車通学においても国道3号沿いの通学路に雑草が生い茂っているとのことで、国土事務所に連絡し、早急に対応してもらった。

今後は、尾崎小から山下小に通学する児童がいるので、現在の学校での状況を確認して、できることは改善していきたい。

(8) 令和6年度の児童生徒数について（教育長）

厳しくなってきた。大きく減少するところで、阿久根小学校が4学級の減で、先生が4人減少する。この関係で中学校が少しずつ増えてくることになり、2学級の増。西目小が3・4年の複式であったが、3・4年と5・6年で複式となる。また、1・2年生で1名減となると複式になるという現状がある。鶴川内小学校は今年も変則複式だったが、来年度は1・3年、4・5年の変則複式となり、依然として教頭先生が担任をする状況が続き、学校から先生の指導について教育委員会が対応してほしいとの依頼を受け、現在検討しているところである。

鶴川内中学校については、新1年生が通常学級に1人、特別支援学級に5人いるが、いずれも特認校制度を利用しており、地元の生徒がいない状況である。また、1・2年生が複式となっており、来年度は8名減の10人となり、厳しい状況である。校長先生からも学校行事の運営が難しいとの相談を受けている。現時点で対策は見つからないが、小・中学校の連携で何か改善することができればしていきたい。

(9) 部活動の地域移行（教育長）

令和7年度からを目標にということで会議を重ねているが、吹奏楽などの文化系の受け皿が無い状況にあるので、教育委員会を中心に令和6年度から吹奏楽部の小集団編成の組織を立ち上げ、市民から団員を募り、最終的には子供たちも入れていきたい。現在、規約等を検討している。これに合わせて、市の音楽会を実施しない方向で考えていたが、学校側から1年実施しないと実施方法が分からなくなるということで、次年度に計画しているところである。

中野委員 吹奏楽部の団員を一般募集するとのことだが、楽器を演奏できなければだめなのか。

中野教育長 ハードルが高くなるので、経験があるなしに関わらず募集してきたいと考えている。

中野委員 活動時間は、夕方になるのか。

中野教育等 子供たちは活動があるので、一般の方たちを集め練習パターンを作ってから中学校に声掛けをしていきたい。

大漣委員 三笠、脇本、折多の小中一貫教育で教科によって他校への授業をしているが、学校が一つにまとまる時期をいつ頃と考えているか。

中野教育長 同じ建物の中に児童生徒がいる形が、移動の必要もなく先生方も同じ職員室となるので良いと思うが、今の3校の児童生徒数は、脇本小や三笠中に一つとしても人数的に入らない。人数的に建物に入る状況にならないと難しい。学校規模適正化の基本方針についても、そこの部分を謳ってはいない。早くても令和11年度以降になると思う。

大漣委員 薩摩川内市の東郷学園は、小中一貫校であるが。

- 中野教育長 この学校は、新しい土地に新校舎を建設し、児童生徒がいる状況である。しかし、この学校は、教員の乗り入れをしていない。本市の3校は乗り入れをしており、脇本と折多間は、出張扱いで対応している。折多小は、算数の指導を2人で行うので、成果が表れてきている。
- 大漣委員 鶴小の教頭先生が、授業に出ているとのことだが。教頭職だけで忙しいと思うが。
- 中野教育長 教頭が教頭職とクラスの担任をしているので、校長先生も教頭先生の授業の内、週9時間授業を取っている。また、保護者との説明意見交換会を実施したが、状況は厳しいとの意見が出ている。先生方の状況を見て、全員ではないが、理解が進む方向になっているのではないか。
- 大漣委員 教員数はどうなっていくのか。改善されていくのか。支援員や期限付き職員はどうなるのか。しわ寄せは全て子供たちにくることになる。学校の適正規模は非常に重要である。
- 中野教育長 薩摩川内市の祁答院地区が、4小学校1中学校で統・廃合し、来年度新しい学校になるが、ここも少人数指導に問題があり、保護者から地域に働きかけがあり進んだということを知っている。転入後、間もない先生で複式学級への対応に責任を感じ、現在相談を受けている状況もある。一生懸命する先生なので、先生たちの健康状態を含め、地域に理解を得られるよう話すことも大事と考えている。
- 中野委員 避難訓練は、学校だけではなく、いろんな場所で想定され経験していくことで、身を守ることに繋がっていくと思う。鶴小の裏手は、土砂災害区域に指定されていて、地震の時には心配になる。大川小学校も大きい岩があり心配である。
- 中野教育長 年3回、火災、大雨、台風等を想定した訓練を行っている。今回は、津波を想定したもので相談を受けている。今後も継続して検討していきたい。また、能登半島沖地震の関係で当該地域の児童生徒たちに困り感があるということで、しばらくして、全学校で何ができるかということを決めて、被災した小・中学校を応援していきたい。
- 中野委員 阿久根小学校の4学級減というのは、1学級の人数が増えるということか。
- 中野教育長 原因は、特別支援学級の減である。成長につれて発たちしていくので、ここが大きい。通常学級の児童数の減も理由としてある。加配の定数が、阿久根小に2名入っているが、国が35人学級を実現するため、予算の関係上厳しくなっている。加配で対応する鹿児島県の加配定数についても引き上げて、35人学級になるところへ配置し直す。

- 中野委員 鶴中の令和6年度の新1年生の内、特別支援学級に5名ということだが、全て特認生であるのか。鶴川内から3名、折多小校区から3名か。
- 中野教育長 阿久根小校区から3名である。中学校の複式は、授業が難しく大きな課題である。
- 中野委員 普通学級に行く生徒1名は、どういう状況か分かっているのか。
- 中野教育長 学校を通して、本人に伝えている。変更はなかった。途中で学校を変更したいという相談があった場合は、本人が希望する学校への手続きをしていきたい。

(10) 今後の教育委員の日程について報告

閉会時間 午後3時01分